

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 はぎ棟)

事業所番号	0691500102		
法人名	有限会社HYOコーポレーション		
事業所名	グループホームすずな		
所在地	山形県長井市寺泉641		
自己評価作成日	令和 4年 10月 4日	開設年月日	平成29年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然との触れ合いを重視し、四季折々の野菜や草花と親しんでいます。笹巻作り・おはぎ作り・じんだんや干し柿作り・里芋の皮むき(芋煮作り)等々利用者と共に作れる喜びを味わい、家庭的な雰囲気を楽しんでいます。また、紅葉ドライブやあやめ・つつじ鑑賞、観桜会と少しずつ外へ足を運ぶ機会を増やしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 4年 10月 31日	評価結果決定日	令和 4年 11月 18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナウイルス感染症の終息の兆しが見えず、地域との交流もなく家族等との面会も出来ずにいますが、地域の方の協力で畑を耕してもらい、利用者が土に触れ作物を育て収穫し、満足した顔を見せています。この姿を見て職員は、面会の機会を作りたいとわずか10分、県外の方はPCR検査のあと10分の面会を実施しており、遠方の方が面会出来た事に職員もホッとしています。利用者には自分らしく過ごしてもらうには、私達はどんな支援をすべきかと常に考え、同法人の長井3事業所合同での研修で学びあい、利用者に統一したケアで関わり、居心地よく過ごしてもらっています。今までの経験を活かした家事活動も取り入れ、今できる事を長く続けられる様気配りした支援を行っている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を念頭に置き、出勤時必ず目を通してから業務にあたっている。	職員は出勤時、玄関に掲示してある運営理念を確認し業務に入っている。部門会議の中で振り返り、まちまちな考え方を統一して活動するよう話し合いをしている。利用者がこれまでの暮らしと同じように生活出来るよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も7月初めの草刈りに出席したり、畑の方も地区の民生委員の方に耕してもらっている。	例年ならば、やははいる(さいど焼き)・収穫祭・文化祭などに参加し、地域の人々との交流もあったが、コロナ禍により行事が中止となり利用者も淋しい思いをしている。そのような中で畑を地域の方に耕してもらい、今までと同じように畑仕事を頑張っており、満足した笑みが見られている。職員は地域の草刈りに参加して交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で、地域の方との交流も難しい現状にあるが、機会を作り柔軟な対応に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	なかなか開催が難しいが、2ヶ月に1回は書面にて現況報告を行っている。頂いた情報に関しては、職員にも伝達しサービスの向上に繋げている。	コロナ禍により書面会議となっており報告事項・活動報告・ヒヤリハット等を知らせている。メンバーの中には協力医、連携施設からも出席があり情報提供を受けている。地域の結びつきが大事であり情報の収集が欠かせない大事な会議と捉えており、職員にも理解してもらい業務に活かせるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の他に、判断に苦慮している件に関しては、直接窓口足を運び市の担当者と相談している。	市の担当者とは、不明な点や疑問が生じた時は連絡を取って訪問・面談し解決している。運営推進会議に出席の市職員にも助言をもらい協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	虐待防止委員会を開催し、事業所内の虐待が行われていないか確認している。また、虐待の考え方を身近に感じてもらうために、アンケートをとったり、会議等で自分自身のケアのあり方についての振り返りを大切にしている。	長井市内3事業所で虐待防止委員会を各所2名、6名で構成しており、決議事項は部門会議で話し合っている。拘束しないケア、特に言葉の拘束については事例をあげて検討し、互いに注意し合っている。利用者の安全に配慮し服薬や薬品等は鍵のかかる保管場所で管理し、床に物を置かないなど注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の全体会議内で定期的に研修を実施している。日頃のケアの中でも対応に苦慮するところは、都度会議を開きスタッフ全員で検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度等に関しては、スタッフも意識が低いいため活用するまでには難しい現状にある。少しずつ研修の場を増やし、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の家族が不安なく入所出来るよう十分な説明を行っている。リスクや感染症についても説明を行い、不安を解消したうえで、ご理解・納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で思うように面会も難しい現状が続いている。電話や手紙を利用し、近況報告を行っている。その際、家族の方からも意見を頂き、その意見をしっかりと受け止めたうえで運営にあたっている。	コロナ禍にありながらも家族等から通院介助時に話を聞き、また、事業所から電話をして希望・要望を聞き、利用者の様子を伝えている。面会もなかなか難しい時期ではあるが、面会室で10分、県外からはPCR検査の後10分と短時間ではあるが面会出来、安堵して帰られている。職員は様々な要望など申し送り共有し、統一したケアに繋げている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や部門会議で自由に意見や要望を発信し、出された意見は管理者会議で検討し反映できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて、個別面談を設け職場内の状況を確認している。また、各職員がやりがいや向上心が持てるよう努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や人材育成部の研修参加を図り、ケアの向上に努めている。研修に参加できなかった職員へは、資料を配布し必要な情報は口頭で伝え全職員が周知出来るよう努めている。	同法人長井3事業所合同による研修計画に基づいて統一したケアが出来るよう学んでいる。今の状況では外部研修にも参加できないが、介護技術の習得など利用者と同じ目線に立っての学びに力を入れ、職員が共に育ち合えるよう導いている。介護福祉士・認知症ケア専門士等の資格取得には援助もしている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ感染症拡大のため、同業者との交流がなかなか図れない現状にある。	今の時点で他事業所との交流は出来ていないが、長井市のケアマネジャー会議に参加し情報交換を行い、少しでも利用者へのサービス向上に繋げるよう努力している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し、本人の思いを可能な限り聞き出せるように努力している。聞き取り後の情報は、職員と共有し、統一したケアの提供ができるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面談を実施し、抱えている不安や思いを聞き出すよう努めている。聞き取り後の情報は職員と共有し統一したケアの提供に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった時点で、本人や家族と面談し、必要とする支援の方法を検討しながらも、他の事業所との調整を行い対応するようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を中心に生活リハビリにも力を入れている。一緒に出来ることは率先して実施し、生活の場を大切にしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響もあり、短時間の面会が主となっているが、電話での会話や日々の健康状態を報告することで、本人と家族の関係が希薄にならないように努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容院や知人に対しては、今までの関係が保てるよう支援している。親戚や知人の方からの電話や手紙には積極的に会話をし見聞に努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係性をみながら配慮をし、意思疎通の難しい利用者を孤立しないような環境作りに努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院を機に契約終了となっても、本人やご家族が不安を抱えないよう必要に応じて支援するよう努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話を大切にし、その中からいろいろな思いや要望を汲み取れるよう努めている。意思疎通の困難な方には、表情や身振り手振り等から要望を察知し、利用者本位のケアを提供出来るよう努めている。	毎日の生活の中で入浴時・排泄介助・居室での会話など1対1のケア時に利用者の本音に触れる事が多くあり、申し送りノートで共有し部門会議で再検討してケアに繋げている。表出の難しい方には問いかけたり声がけをして、表情から気持ちを察して笑顔を引き出している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・前ケアマネからの情報を収集し、全職員に周知・把握するように努めている。入居後も以前からの生活スタイルを大切にしたい生活が出来よう環境作りに努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケアを中心に、個々の生活リズムを尊重している。出来ることを把握しながら、残存機能が維持出来るよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>部門会議時に評価を実施し、現状の計画書で継続可能か変更が必要なのか検討し、計画書に反映するよう努めている。</p>	<p>利用者が過ごして来た年月の生活リズムを大切に「出来る事、やれた事」を重視して、個別ケアが出来るよう配慮している。居室担当職員の意見を聞き計画作成担当者が立案、部門会議で職員に周知を図り、今出来る事が長く続けられるよう思いを込めて作っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子を記録し、職員全体で共有している。普段と様子が違う時は、24時間シートを活用しケアの統一を図っている。</p>	/	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ感染症拡大に伴い、外出が難しい現状である。</p>	/	
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医に継続して受診することで、早期発見につながっている。受診には出来るだけ家族に付き添って頂いている。付き添いが難しい家族には、受診後結果報告し、家族との連携を取っている。</p>	<p>かかりつけ医の受診は原則家族対応としているが、遠方の家族や高齢の家族など対応が難しく職員が通院介助する方も多い。家族対応時は受診結果を聞き、次回受診日や薬等について報告を受けている。また職員は各ユニットの介護通院記録簿に記入し共有している。服薬は看護師が管理し、一日ごとにセットしたものを服薬してもらい2名体制で確認して誤薬を防止している。</p>	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の異変時には、常勤の看護職員に相談・指示をもらって対応している。看護職員不在時には、同法人内の看護師に相談・指示をもらう場合もある。看護職員は毎日の様子を記録し、日頃の体調変化に早期対応できるようにしている。</p>	/	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際は、入院時情報提供書を作成し情報を提示している。入院中も病院の医療連携室との連絡を密に取り、状態の確認を行い早期退院に繋がるよう努めている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取り介護指針を作成し、身体の変化に応じて主治医や家族等と話し合い、今後の方針について統一し共有している。</p>	<p>看取り指針を作成し職員は研修を行い、何より家族の希望に沿った対応を心掛けている。利用者の状態変化や途中で家族の気持ちの変化もあるため都度話し合いを継続しながら最善な方法になるよう取り組んでいる。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応や夜間急変時の対応マニュアルを基に、部門会議でシミュレーションをしている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回(春・秋)利用者や消防署の方にも協力を頂きながら、日中帯・夜間帯の避難訓練を実施している。</p>	<p>総合訓練2回と火災訓練を実施している。実施計画を詳細に作成し役割等を明確にして実施後は消防署からの総評をもらい反省点を次回に活かしている。日頃は各居室のコンセント点検や非常持ち出し品、備蓄品、紙おむつ等の確認を行っている。更に水害や地震等を想定した訓練に取り組んでいきたいとしている。</p>		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>プライバシーに関する話をする時は、場所や声の大きさに配慮している。また、排泄介助や入浴介助時には羞恥心に配慮しながら介護にあたるよう心掛けている。</p>	<p>あなたらしい生活に寄り添い～と理念に謳っているように一人ひとりの今までの生活や習慣を大事にして現状を維持できるよう支援している。入浴時やおむつ交換時など、トイレ誘導時の声かけは自尊心を大事に職員は統一した支援を行っている。</p>		
36		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者の思いや希望を発信しやすい環境作りに努めている。表現が難しい利用者には、選択肢を限定し、選択しやすいよう配慮している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意思や希望を優先し、自分の時間を大事にしている。本人のペースで生活できるよう支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後の衣服は自分で選び、身だしなみが整えられるよう支援している。また、馴染みの美容院に外出し好みのサービスが受けられるよう支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることの楽しみを大事にし、利用者と共に、野菜の下ごしらえをしたり味付けをしてもらえるような雰囲気作りに努めている。また、週1回の手作りメニューには、旬の野菜を取り入れ、利用者のリクエストに添って対応している。	コロナ禍にありホームの中にいることが多く、そのため食事には特に力を入れて行事食、誕生日会、バーベキューなど様々に工夫して楽しんで貰えるよう取り組んでいる。手作りメニューの日は畑で採れた野菜を利用するなど、利用者の出番があり生き活きとした表情が見られている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態や禁食・偏食にも考慮し提供している。また、食事量や水分量も把握し、体調の変化にも十分配慮しながらケアを行っている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後には口腔ケアを実施している。歯ブラシやコップは毎回必ず消毒し、衛生保持に努めている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行い、個々の排泄パターンを把握している。排泄希望時には、トイレ誘導を実施し、日中はなるべくトイレでの排泄を促している。	利用者のほとんどが立位可能なので日中はトイレでの排泄を大事にしている。認知症が進んでいる方もおり、夜間はオムツに代わる方もいる。ひとり一人に合った排泄用品を適時利用し気持ちよく過ごせるよう支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の利用者には、なるべく多めに水分を取って頂くよう努めている。また、毎日同じ時間に便座に座る習慣をつけ、自然排便に繋がるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	身体状況に応じて機械浴と個浴で対応している。週2回入浴予定しているが、体調や気分が優れない時には無理せず柔軟な対応をするよう心掛けている。	機械浴や一般浴槽を利用し、週2回を目安に入浴を実施している。拒否のある方には声がけに注意して入浴してもらい、入ったあとは「あったまってよかった」と喜んでいる。安全に配慮し滑り止めマットや移動バーを完備し、入浴時は皮膚状態等の観察も行い、利用者の本音が聞ける場ともなっている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに応じ、自由に休息出来るよう支援している。また、昼夜逆転にならないよう日中の過ごし方にも工夫をもちらしている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には複数の職員で確認し、飲込むまでしっかり見届ける様努めている。薬の変更時は症状の変化に重視するよう努めている。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味・嗜好の情報を基に、得意なことを発揮できる活動の場を大切にしている。個々のニーズに合わせた「自分の役割」を持ってもらえるよう声掛けや支援を行っている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか外への外出は難しい現状にあるものの、身近な畑やプランターに植えた花への水かけ等外の空気を感じる機会を設けている。また、天気の良い日には、外でのティタイムを促し、景色を眺めたり散歩をしたりと臨機応変に対応している。	コロナ禍により以前のように外出する機会が減り、利用者のストレス軽減を考えて、施設回りの散歩や庭でお茶をするなど気分転換を図っている。また車に乗り町を一周してくるなどドライブ気分を味わっている。個別には感染症に配慮しながら馴染みの美容院へ行く方もおり、職員はいろいろ工夫しながら利用者の気持ちに寄り添っている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要なものや欲しい物は預かり金の中から購入している。預かり金は毎月家族へ収支報告おこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の子供さんや知り合いの方とのやり取りは電話で対応している。上手く電話を掛けられない利用者には支援を行っている。手紙やはがきのやり取りも自由に行っている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールのより良い雰囲気作りに努めている。壁面の装飾は、利用者と共に製作し季節感を味わってもらっている。また、和室部分ではゆったりと足腰を伸ばして過ごせるように努めている。	天井が高く広く明るいホールにはテーブル席、畳コーナー、テレビを囲んだソファ席を設え、思い思いの場所で談笑している。利用者はマスクをすることにより慣れてきて感染症対策が身についてきている。壁面には手作りの作品を飾り季節を感じられるよう工夫し刺激にもなっている。利用者は行事の写真がお気に入りで見守りに眺めている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	プライベートの場所を考慮しながら、ホール・ユニット・居室と自由に行き来が可能であり、気の合う仲間と思い思いに過ごしている。それぞれの好みの空間を大切にしている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室は自分らしさを大切に過ごして頂ける空間作りに努めている。自宅同様自分で掃除をし清潔保持にも努めている。	居室は洋服ダンス、エアコン、ベッドが備え付けてあり、そのほか利用者の馴染みの家具やテレビ、冷蔵庫、加湿器等を持ち込んでいる方もいる。動線に配慮し転倒防止に努めている。朝食後利用者と職員で掃除機やモップ掛けを行い清潔にしている。担当職員が衣類整理を手伝い季節に合った服装で過ごせている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	いつでも身近に職員が待機しており、「わかること」「できること」が安心して行えるよう努めている。			